

企業固有の競争力を高めるための 生産管理の考え方

吉田技術士研究所 吉田弘美*

プレス加工および板金加工などのモノづくりを行なっている企業にとって、技術と管理は車の両輪に例えられてきた。しかし現在は両者のバランスと関係が大きく変わり、技術を車、管理を運転と考えると良い。車の進歩は運転操作を容易にし、必要とする多くの知識およびテクニックを不要とし、その上、事故およびトラブルの発生も大きく減少している。現在は世界的な自動運転の開発競争が激化しており、運転を一層簡単にし、運転そのものを車自身が行うことも可能になりつつある。

プレス加工の現場は車より先行しており、機械および自動化機器、金型、およびこれらとコンピュータシステムを組合せた技術の進歩により、品質、納期およびコストに必要な管理は無限に自動化、簡略化、不要化などが可能になりつつある。

統計と確率などを基本とする科学的管理法が発達したのは、手作業中心のモノづくりで個人差が大きく、結果も不安定で混乱しがちな生産状況を補うためであった。このような意味で現在は生産管理をはじめとする管理業務の大きな変革期であるといえる。その中で管理業務の充実および精緻化などは時代に逆行しかねず、今後の基本方針が問われている。

生産現場を中心とする生産管理のさまざまな手法についてはほかの項に譲り、ここでは基本的な考え方を述べてみたい

生産管理についての基本的な考え方

1. 管理部門の役割と業務の見直し

管理部門をいかに充実させ、多くの情報を迅速に処理できても、それだけでは効果は少なく付加価値を生みにくい。実際の効果を上げるのは直接モノをつくる現場であり、加工および作業をする設備と人である。管理部門は現場の生産をコントロールするのではなく、現場に対する情報提供のサービス部門と考えると存在価値と業務内容が変わってくる。

2. 管理業務は自己増殖をやる

管理業務は放っておくと時間と共に業務の範囲の拡大、精緻化、新しく追加される業務などにより業務を自ら増やして行く(図1)。

* (よしだ ひろみ) : 所長
〒259-1114 神奈川県伊勢原市高森 4-5-5
TEL : 0463-93-4594 FAX : 0463-93-1216

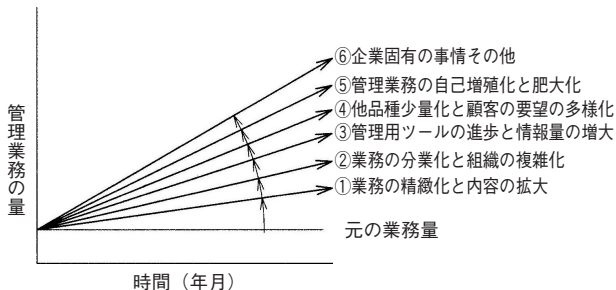


図1 管理業務に必要な処理量は移管とともに増加する